

ト言フ可カラズ此度再興ニ際シ英國海軍人ヲ聘シ傳習ヲ受クル事

ニナセリ 是ヨリ前稻葉總裁以下屢々濱園ノ海軍所ニ會議シ英國公使並ニ提督時々來リ質問ニ答
へ且士官ヲシテ英艦ヲ視察セシム傳習學科ハ戰術海軍諸則ヲ加へテ畧ホ英國海軍ト同

等ニ迄テ進メ築地ニ教場及ヒ病院元操練場ニ
教師館ヲ取建廣ク傳習生ヲ募リ總ノ準備整フ 九月二十七日英國海軍人到着シタレ

バ先ツ始業シ漸次豫定ノ通り實行セントセシガ偶官軍東下ノ事ア

リ因テ教師ノ雇ヲ解キ事皆畫餅ニ屬セリ慶應四年戊辰二月十八日

海軍所頭取仰付ラレ三月二十二日御勘定奉行御勝手方相勤ムヘキ

旨仰渡サル (四月四日勅使西丸へ入來 天裁五ヶ條ノ趣來ル十一

日迄ニ夫々施行スヘキ旨命セラレタリ) 四月十一日上様 慶喜 水戸

表へ被爲入ニ付同僚ト共ニ東叡山マテ御見送り夫ヨリ御立拂跡ノ

坊舎目付立合ノ上見分ス 五月二十五日徳川家臣ノ
輩自今官位ノ儀差止ラル 六月十日辭職表ヲ差出

二十日御役御免ノ旨仰渡サル七月二十六日依願退隱芥舟ト改稱セ

リ此後全ク意ヲ仕途ニ絶チ屢々明治政府ヨリ徵サレタレドモ拜辭

シ 此時吾兒ヲ以テ代ヘテ海軍ニ御奉
公セシメントノ意ヲ決セシトノ事 餘生ヲ風月ニ寄せ專ラ詩文ヲ友トシ悠々

自適セシガ明治三十四年十二月ノ初メ病褥ニ臥ス同月九日帝國海

軍ノ創設ニ功勞アリトテ特旨ヲ以テ正五位ニ叙セラレ同日午後十

時長逝ス享年七十二法名芥舟院穆如清風大居士武藏國豊多摩郡千

駄ヶ谷瑞圓寺ニ葬ル

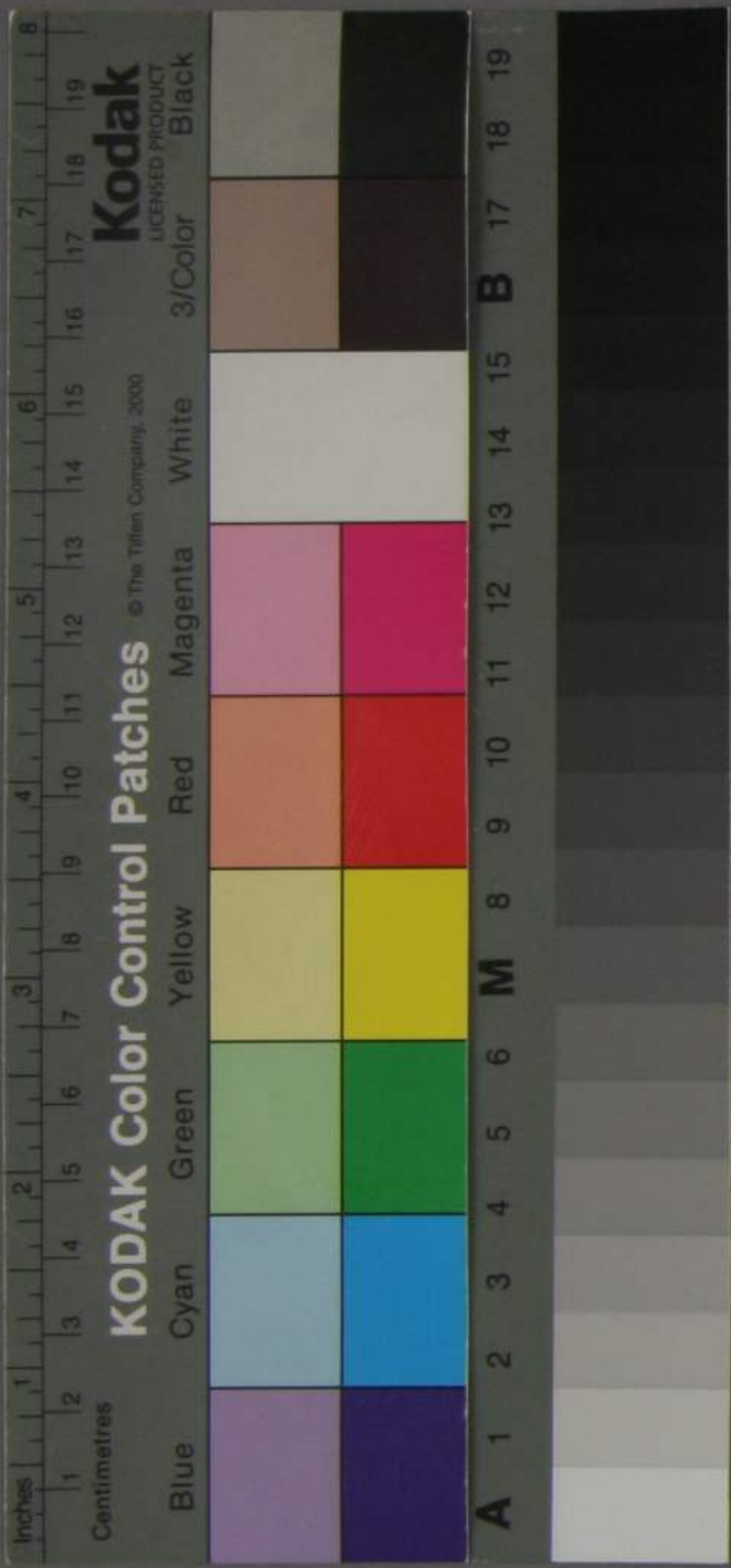
遺書ノ中ニ海軍ノ事ハ予ガ十餘年來其命ヲ辱フシ軍艦奉行ノ職ニアルコト前後九年

屢々建議シテ其擴張ヲ促シ一定ノ規則ヲ設ケラレンコトヲ望ムト雖ドモ一モ省セラ

レズカクテハ予ガ駑材徒ニ其職ヲ曠フシ賢路ヲ妨ル恐レアレバ一度ハ其官ヲ辭シタ

レドモ政府モ稍此事ノ忽諸ニ附シガタキヲ知リ予ガ曾テ熱望セシ企圖モ漸次行ハレ

洋学文庫
文庫8
J248
5



ト言フ可カラズ此度再興ニ際シ英國海軍人ヲ聘シ傳習ヲ受クル事

ニナセリ 是ヨリ前稻葉總裁以下屢々濱園ノ海軍所ニ會議シ英國公使並ニ提督時々來リ質問ニ答
ヘ且士官ヲシテ英艦ヲ視察セシム傳習學科ハ戰術海軍諸則ヲ加ヘテ畧ホ英國海軍ト同

等ニ迄テ進メ築地ニ教場及ヒ病院元操練場ニ
教師館ヲ取建廣ク傳習生ヲ募リ總ノ準備整フ 九月二十七日英國海軍人到着シタレ

バ先ツ始業シ漸次豫定ノ通り實行セントセシガ偶官軍東下ノ事ア

リ因テ教師ノ雇ヲ解キ事皆畫餅ニ屬セリ慶應四年戊辰二月十八日

海軍所頭取仰付ラレ三月二十二日御勘定奉行御勝手方相勤ムヘキ

旨仰渡サル (四月四日勅使西丸へ入來 天裁五ヶ條ノ趣來ル十一

日迄ニ夫々施行スヘキ旨命セラレタリ) 四月十一日上様 慶喜 水戸

表へ被爲入ニ付同僚ト共ニ東叡山マテ御見送り夫ヨリ御立拂跡ノ

坊舎目付立合ノ上見分ス 五月二十五日徳川家臣ノ
輩自今官位ノ儀差止ラル 六月十日辭職表ヲ差出

二十日御役御免ノ旨仰渡サル七月二十六日依願退隱芥舟ト改稱セ

リ此後全ク意ヲ仕途ニ絶テ屢々明治政府ヨリ徵サレタレドモ拜辭

此時吾兒ヲ以テ代ヘテ海軍ニ御奉
公セシメントノ意ヲ決セシトノ事 餘生ヲ風月ニ寄セ專ラ詩文ヲ友トシ悠々

自適セシガ明治三十四年十二月ノ初メ病褥ニ臥ス同月九日帝國海

軍ノ創設ニ功勞アリトテ特旨ヲ以テ正五位ニ叙セラレ同日午後十

時長逝ス享年七十二法名芥舟院穆如清風大居士武藏國豊多摩郡千

駄ヶ谷瑞圓寺ニ葬ル

遺書ノ中ニ海軍ノ事ハ予ガ十餘年來其命ヲ辱フシ軍艦奉行ノ職ニアルコト前後九年
屢々建議シテ其擴張ヲ促シ一定ノ規則ヲ設ケラレンコトヲ望ムト雖ドモ一モ省セラ

レズカクテハ予ガ駑材徒ニ其職ヲ曠フシ賢路ヲ妨ル恐レアレバ一度ハ其官ヲ辭シタ
レドモ政府モ稍此事ノ忽諸ニ附シガタキヲ知り予ガ曾テ熱望セシ企圖モ漸次行ハレ

洋学文庫
文庫8
J248
5